

牛久：学校周辺に見る自然

第25号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年5月30日発行

＜ 晩春の校庭の植物 ～⑥草本(離弁花類)その2. マメ科 ＞

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物。今回は、^{りべんか}離弁花類の草の中からマメ科のなかまを紹介し^{しょうかい}ます。



おなじみの、カラスノエンドウ(左)。実が^み熟すとカラスのよう^{じゆく}にまっ黒になることからついた名(右)。

まずは、これまで何度も登場しているカラスノエンドウ。野菜の^{やさい}エンドウそっくりの花で、実が^み熟すとカラスのよう^{じゆく}にまっ黒になることから、この名がつけました。



アブラムシを食べるナナホシテントウ(左)とその幼虫(中上)、ナミテントウ(右)。アリは何をしている(中下)?

カラスノエンドウには、テントウムシやアブラムシ、アリをよく見かけます。これらの中には、^{かんけい}どんな関係があったでしょう?



花の蜜を吸うニッポンヒゲナガハナバチや、^{たまご}卵を産むナミホシヒラタアブの姿もありました。ここに^{たまご}卵を産むのは、なぜでしょう?

^{みつ}蜜を吸うニッポンヒゲナガハナバチ(左、中)と、^{たまご}卵を産むナミホシヒラタアブ(右)。



スズメノエンドウ(左)と、花のアップ(右)。カラスノエンドウに似ていて、小さいのでついた名(カラスより小さい)。パッと見るとカラスノエンドウに似ていますが、花がとても小さい。これはスズメノエンドウといって、「カラスより小さいから」とつけた名です。ちゃんと、小さい豆ができるのですよ。



シロツメクサ(左)と、花のアップ(中)。ムラサキツメクサ(左)は、色ちがが違うだけではありません。どこちがが違う？

こちらもおなじみの、シロツメクサとムラサキツメクサ(アカツメクサ)。ろくに見もしないで、「花の色ちがが違う」ですませてしまいがちですが、よく見ると、結構けっこうたくさん違ちがう点が見つかりますよ。どちらも、ヨーロッパげんさん原産きの帰化植物かしょくぶつです。

最後に、コメツブツメクサ。シロツメクサに似ていて、花が小粒こつぶなのでつけた名です。これも帰化植物きかしょくぶつで、ヨーロッパ～西アジアげんさん原産です。

【理科支援員：宮内】



コメツブツメクサ(左)と、花のアップ(右)。花が小粒こつぶなので、つけた名。ヨーロッパ～西アジアげんさん原産。